

大学からの広報発信について

国際・地域・広報担当理事 中村文彦

理事・副学長を拝命いただいてから1年がたちました。まったくもって慣れない仕事で、また、就任当初から多くの緊急案件にぶちあたりながら、まさに七転八倒の日々で、季節感もなく過ぎた1年であったといっても過言ではありません。

大学院博士課程を中退の後、助手、海外の大学院での助教授、横浜国立大学に来てから、助教授そして教授となつての間の20年余り、その後、都市イノベーション研究院長としての2年、これらと比して、全く別の世界に突然入り込んだ気持ちで、本日に至っています。

しかしながら、新しい出会いも多く、また学ぶことも多く、良い意味で人間的な成長を実感することも少なくありません。自分が職掌としている国際、地域、広報の中で、特に広報というのは、自分にとってはとても新鮮な分野です。自分が専門としている都市交通の分野では、数多くの業務で、地域にとって新しいバスサービスの企画立案および運行业務の支援や、交通規制を伴う大規模な社会実験の企画立案と実施の支援をしてきましたが、そこでも広報というのはとても重要な課題でした。それらの経験を活かしつつ、全体に財政的にはきわめて厳しく、かつ多くの課題を抱えている大学法人において、広報とは何をすべきなのか、若い職員の方々とともに、いろいろと考えて、少しずつですが動きはじめつつあります。

大学が抱えている課題の中で、特に重視していることが3つあります。

ひとつには、外国人や社会人を含めて多くの方に、横浜国立大学で学びたいと思っていただくことです。意欲的で優秀な、そして多様な学生が1つのキャンパスに集い、一緒に学び交流していただくことは、教育機関としての大学としてとても重要です。

2つめに、卒業生、企業の方々などに対して、大学の現状や動きを知っていただき、いろいろなかたちでご支援いただくことも重要です。税額控除の仕組みの変更に伴い、大学への寄付は従前よりやりやすくなっています。たとえば新興国からの優秀な留学生の学業支援などで、大学への寄付金は有効に活用できるものと考えています。

3つめは、大学内部に対してです。本学は、学生総数で1万人弱、常勤教員数では700人弱というのは、大規模にもみえますが、国内あるいは海外の有名大学と比べると、規模は必ずしも大きくなく、内部の組織の数も多くはなく、すべての学部および大学院が同じキャンパスに集まっている、そういう意味でコンパクトにまとまっている大学です。にもかかわらず、教員も学生も、その多くは、他の学部や学府・研究院、学科や専攻、課程あるいはコースや教育プログラム、さらにはセンターで行われている活動を知ることが少ないようです。悪く言えば、バラバラ感がとても強いように思います。この活動とこの活動をつなぐことで、この人とこの人で議論してもらうことで、新しいことが生まれそうだ、という感じる場面に、この1年間、少なからず遭遇しています。

こういった3つの課題に対して、総額としての費用を削減しながら、広報の分野でいろいろなかたちで取り組み始めています。そのうちのひとつが、本誌でも今号から使っていただいています、

「YNU 出版会 (YNU Press)」

です。大規模ないくつかの大学が所有している、法人格としての出版会ではありません。担当部署も担当職員も、そして専任担当理事もいないかたちでのスタートです。大学の各部局、センター、団体で出版しているもの、発行している報告書やリーフレット、ブックレットには実にさまざまなものがあります。きわめて高度で専門的なものもあれば、より幅広く親しみやすくまとめられたものもあります。残念ながら、これまでは、それらが相互に認知されることはなく、かなりもったいない状態で

あったといえます。今後、学内から発信する多くの発行物に対して、この YNU 出版会のロゴを用いていただき、同時に YNU 出版会のホームページ上でリスト化していくことで、大学として、このような発行、発信活動をしているということを、全学的に共有いただき、かつ、大学外にもわかりやすく発信していくことができるのではないかと考えています。少しずつ実績を積み上げて成長させていきたいと思えます。

広報のほかの動きについては、ここでは紙面の都合で紹介しませんが、この YNU 出版会という戦略を含め、本学の広報の動きにご注目いただき、ご支援いただければ幸いです。